



校友さんしゃ

題字：元総長・細野 武男氏

2026
Winter

2026年2月1日発行

Vol.
66



R 立命館大学産業社会学部創設60周年記念祝賀会



産業社会学部公式ゆるキャラ総選挙
第1位「えんしゃ」

産業社会学部創設60周年記念 祝賀会 兼 SanShaサロン

たくさんのご来場ありがとうございました

瞬間に予定の2時間を迎えた祝賀会兼SanShaサロンは、創設60周年記念事業実行委員会の松島剛史事務局長による閉会の挨拶、そして「はい、えんしゃ!」の掛け声のもと全員で記念撮影を行いました。

黒田学学部長の開会挨拶、市井吉興社会学研究科長の乾杯発声で開宴した祝賀会兼SanShaサロンは、京都ブライトンホテルの素晴らしい食事や飲み物でもてなしはもろんのこと、宴会中の余興も随所に工夫が凝らされていました。産社公式キャラクターコンテスタの発表では、人間福祉専攻2回生の渡邊花菜さんが制作した「えんしゃ」が最優秀賞に選ばれ、祝賀会参加者には「えんしゃ」がプリントされたクリアフォルダーがお土産として配布されました。また、産社校友がメンバーの一員である楽団「ザツハトルテ」による賑やかで愉快な生演奏では、自然とコール&レスポンスも沸き起こりました。

2025年11月22日(土)
京都ブライトンホテル(慶祥雲の間)
参加者 187名

産業社会学部創設60周年記念式典と講演会終了後、記念祝賀会兼SanShaサロンが開催されました。参加者は、総勢187名。現役および歴代の教職員、学生、院生に加え、校友のみならずにも多数ご参加いただきました。ご友人同士、基礎演習(プロゼミ)や低回生時の語学クラスでのグループ参加などが目立ち、中には学生時代以来数十年ぶりの再会に大きな歓声があるなど、開会前から会場は大変賑やかな雰囲気になりました。



産業社会学部校友会総会開催報告

2025年11月22日(土)
京都ブライトンホテル(英の間)
参加者 約20名

3年に一度開催しております立命館大学産業社会学部校友会総会を、2025年11月22日に京都ブライトンホテルにて開催いたしました。野村慶人事務局次長による開会の辞に続き、黒田学産業社会学部長より来賓挨拶が行われました。その後、2023(2025年度)の活動報告、各年度の会計報告および監査報告、さらに2025年度予算案について審議が行われ、いずれも承認されました。

また、最終議案である新会長候補提案にて古谷寛会長の退任に伴い、新たに梶岡修一氏が選出承認され、新会長としての挨拶ならびに今後の方針等を述べられ終了いたしました。



KAJIOT

新会長あいさつ

平素より、産業社会学部校友会の活動に対し、温かいご理解と多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

私の世代にとって立命館大学といえば、名刺に囲まれ底冷えのする衣笠キャンパスが思い浮かびます。産社は学而館にありました。市バスに揺られて通学した日々は、鮮明な記憶として残っています。時は流れ、インバウンドが増えた市中の雰囲気だけでなく、現役生の気質も大きく変容したことでしょう。それでも京都は、当時から今も「学生さんの街」です。市内で学ぶ学生数は人口の約1割に相当するといえ、居心地の良い環境だといえます。この地で青春を過ごせたことを、今さらながら幸せだったと実感しております。

これからも時代は変化し、その速度はますます加速するでしょう。先行きが読みにくいと言われる現代において、皆さま方も仕事やプライベートを含めて、



梶岡修一(1988年卒)
神戸新聞社社長

さまざまな課題や悩みを直面されていることと拝察いたします。

だからこそ、校友会の存在意義が高まります。当会には、幅広い世代、業種も様々で多様なメンバーがおそろいです。この場での交流は、新たな視点を得たり、問題解決のヒントとなったり、時には創造的な出会いとなる可能性も秘めています。私たちが培ってきた経験や知見を、未来を担う若い後輩たちに伝えることも、大切な責務であると考えます。

校友会活動が、会員一人ひとりの人生を豊かにし、母校の更なる発展に寄与するよう、私自身、会長として力を尽くす所存です。

どうか皆さま方におかれましては、このつながりを大切にしてください。ご一緒に当会を盛り上げていただけますよう、心よりお願い申し上げます。

梶岡修一

産業社会学部 創設60周年記念式典・講演会



記念式典

産業社会学部校友会総会後、同会場において立命館大学産業社会学部創設60周年記念式典・講演会が開催されました。現役および歴代の教職員や卒業生、在学生が集い、学部歩みを振り返り未来への期待を語り合いました。

記念式典の司会は、産業社会学部卒業生で現在アナウンサーとして活躍されている具嶋柚月様によって務められ、和やかな雰囲気の中で進行されました。黒田学産業社会学部長をはじめ、学校法人立命館森島朋三理事長や仲谷善雄総長、古谷寛産社校友会会長(同日総会にて退任、名誉顧問に)、校友会辻井亨産業社会学部自治会委員長から祝辞が寄せられ、梶岡修一産社校友会新会長(神戸新聞社社長)の紹介やPR動画上映も行われました。

2025年11月22日(土)
京都ブライトンホテル(英の間)
参加者 約118名

講演会

第1部では「未来に生きる知と挑戦」をテーマに、黒田学学部長梶岡修一産社校友会会長に加え、高木秀人千葉県市川市教育長の3名が登壇し、大学時代の学びと現在のキャリアを語り、ジャーナリズムや教育、学術研究の現場で活躍する力を共有しました。



第2部では「農でつながる校友の輪」をテーマに、校友の長光祥子氏(生口島ごちそうの森代表)が社会学研究科大学院生の河村太志朗氏が登壇し、地域と大学を結び取り組みや持続可能な暮らしの実践が紹介され、校友を含む産社ネットワークの広がりを感ぜさせる内容となりました。



SanShaサロン

アフタヌーンパーティーin金沢

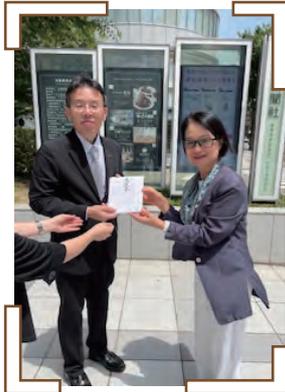


参加人数は20名弱と少人数ではありましたが、和気あいあいとしたサロンが開催できたと思います。

産社校友会企画として初めての北陸での開催でしたが、石川県校友会や富山県校友会の方々が盛り上げていただいたので校友会活動に初めて参加された方にも、産社の魅力が伝わったのではないかと思います。

日付：2025年3月15日
場所：ホテル日光金沢
参加者：約20名

また、ご参加いただいた皆さまの会費の一部と、産社校友会からの寄付金を足した総額10万円を、2025年7月16日に北國新聞社において「能登半島義援金」に寄付いたしました。被災地の皆さまの一日も早い復興を心から祈りいたします。



産社校友会地方企画・開催報告

第5回九州産社交流会

「九州産交in北九州」

九州産交はお陰様で楽しい会となりました。約20名中、8名もの女性校友の参加があり、その中には2018卒業という若い方もいらっしゃいました。また、懇親会前に門司港レトロ地区のガイドツアーを企画いたしました。担当していただいたガイドの方も産社校友で、そのまま懇親会まで参加頂くという、嬉しい誤算もありました。参加者からは「次回はどこですか?」という声も頂きました。

今後も活発な活動が、九州で出来ればと思っておりますので、その際にはぜひご参加ください。

日付：2025年3月1日
場所：門司港 三井倶楽部
参加者：約20名



2025年度着任教員 ご紹介 Vol.2



ちょう さん う
趙相宇 先生
メディア社会専攻

<研究テーマ>
韓国社会のナショナリズムとメディア文化、日韓における植民地支配をめぐる感情や記憶の歴史社会学的研究

<経歴>
2021年 京都大学大学院 教育学研究科
教育学環専攻 博士後期課程 修了 博士 (教育学)

産業社会学部メディア社会専攻に着任いたしました趙相宇と申します。以前から国際調査・教育センターで国際化業務を担当しておりましたが、この度、メディア社会専攻に籍を移すこととなりました。センター時代は主にグローバル社会論といった国際系の科目を担当しており、

グローバルスタディプログラムに携わって参りました。現在では、春のジャーナリズム論に加え、秋のグローバルメディア論を担当しております。私の研究テーマは、記憶と報道であり、日韓における植民地支配関連の報道から歴史認識問題の「想起」と「忘却」の構造を追究して参りました。「ポスト真実」の時代をジャーナリズムがどう乗り越えることができるのか。そもそもジャーナリズムは真実を公示する規範としてのみ認められるべきなのか。日韓の植民地支配の記憶に関わる報道の問題を扱う背景にはこうした問いが存在します。今後は西洋史中心なメディア史ではなく、東アジアのメディア史を記述するための研究にも取り掛かる予定であり、その延長としてこの地域におけるジャーナリズムという形式が西洋のそれとどう異なる道筋を辿ってきたのかを探求して行こうと思っております。本学部の学生や教職員のみならず、積極的で活発な交流のなかで研鑽を重ね、その成果を教育にも還元し産業社会学部のこれからの歩みにほんの少しでも貢献できれば至極光栄に存じます。どうぞよろしくお願いたします。

産業社会学会 共同研究会のご案内

2026年3月末をもって、竹濱朝美先生が定年退職されます。退職記念講義の代わりに産業社会学会共同研究会にて講演されます。なお、2026年4月以降も特別任用教授として、引き続き産社で教鞭をとられる予定です。

日時：3月10日(火) 16:30~17:30(予定)
会場：以学館3階 1G301
内容：「環境分野における学部教育と人材育成・進路開拓の模索」



産社の先生が書かれた 著書のご紹介

訃報

須田 稔 先生

2025年11月8日に永眠されました
享年94歳

産業社会学部名誉教授の須田稔(すだみのる)先生がご逝去されましたこと、ここに謹んでお知らせいたします。
なお、葬儀告別式は、近親者のみで執り行われました。



出版社…クリエイツかもがわ
発売日…2026年1月22日
価格…一、五四〇円(税込)

新書

自閉症を「不安」の視点で理解する

対概念としての幸福感

著者 三木裕和先生

自閉症を不安症の視点でとらえなおす試み。
ASDのある人たちの特徴、強いこだわりや極端な行動の根底には不安が存在している。そして、その不安に対抗する力は幸福ではないか。不安の定義、幸福経験の質的・量的蓄積とは何かを掘り下げ、学校教育、療育、福祉現場での不安と幸福の存在を考察する。



出版社…集英社
発売日…2025年8月8日
価格…一、一五五円(税込)

新書

アメリカのプロレスラーはなぜ講道館柔道に戦いを挑んだのか

大正十年「サンテル事件」を読み解く

著者 藪耕太郎先生

プロとは、興行とは、真剣勝負とは？これが異種格闘技戦の原点。1921年3月、講道館の嘉納治五郎の制止を振り切る形で柔道家と米国の強豪プロレスラーが靖国神社境内にて相まみえた。試合後に嘉納が門下生に処分を科して幕引きとなった一連の出来事は、「サンテル事件」と呼ばれる。本書はまず20世紀初頭に米国で人気を博した異種格闘技の興行に遡り、なぜ「サンテル事件」に至ったのかを明らかにする。

産業社会学部校友会 同窓会開催補助のご案内

産社校友会では、校友相互の交流促進の支援を趣旨として『小集団クラス同窓会補助制度』を設けています。小集団クラスとは、産社在学時の「基礎演習」「プロジェクトスタディ」「専門演習」「卒業研究」などのグループ・集団を指し、現役学生時代にこれらに所属された校友の方々下同窓会を開催される場合に、産社校友会より右記金額の補助を行うものです。同一学年の開催だけでなく、複数学年の合同開催等も対象になります。

内容

参加人数6人(教員含む可)以上の同窓会を補助対象とする(参加人数5名以下、または小集団クラスでない友人同士の集まりなどは対象外となります)。

対象となる同窓会

補助申請にあたっては、小集団クラス担当の教員の承認を条件とする(但し、担当教の教員の承認を条件とするが、担当教員が物故者であるなど、承認を得ることが困難な場合は事務局にご相談願います)。

対象となる経費

同窓会開催案内の郵送料や印刷費、会場費等。

補助金額

参加者数	補助内容
6名～50名の場合	1人2,000円を上限とし、かつ1会5万円を上限とする実費補助
51名～100名の場合	一律7万円の補助
101名以上の場合	一律10万円の補助

申請方法

開催1ヶ月前までに、産社校友会事務局宛に所定の申請書を郵送で提出いただく必要があります。詳細については、産社校友会ホームページまたは、右記QRコードをご利用ください。をご確認ください。(様式もダウンロードできます)



お申込みフォーム

産社の最新情報を産社校友会公式web、公式SNSでcheck!

産社校友会 検索



facebook@sanshaalumni 検索



ID: @sanshareunion



ID: @wli8886c



「校友さんしゃ」

(立命館大学産業社会学部校友会会報)
2026年2月1日発行 第66号

〈発行人〉 梶岡修一
〈編集人〉 立命館大学産業社会学部校友会広報担当
〈発行所〉 立命館大学産業社会学部校友会

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL 075(4655)8185 (直)
FAX 075(4995)8169
E-mail reunion@st.ritsumei.ac.jp

編集室より

創設60周年記念式典も皆さまの支えにより無事開催されました。

創設50周年以降の10年間、産社校友会では恒例のSANSハサロンのアフタヌーンパーティー、映画監督を招いての上映会、産社教員による特別講義、若手校友による懇親会や学園祭でのカフェ出店など『さんしゃ』ならではの様々な企画を開催して参りました。次の10年に向けても様々な企画を開催して参る所存です。また皆さまとお会いできることを事務局一同、楽しみにしております。

第65号「校友さんしゃ」におきまして次の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

- P2講演企画①文中(誤) 高木秀人さま(86卒) (正) 高木秀人さま(96卒)
- P2講演企画①写真下経歴(誤) 高木秀人(1986卒) (正) 高木秀人(1996卒)
- P2講演企画②写真下名前(誤) 長光洋子 (正) 長光祥子